

『イエスから目を離さない』

2024/12/18

松並 徹治

へブル人への手紙 12:1~3

12:1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。

12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

12:3 あなたがたは、罪人たちの、ご自分に対するこのような反抗を耐え忍ばれた方のことを考えなさい。あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないようにするためです。

人生はよくマラソンに例えられます。それはなぜでしょうか。

マラソンは長い距離を走ります、それが人生の道なりと重なることや、時には応援やサポートを受けながら走り、また苦しくなった時には、スピードを調整し最後まで走り続けること等です。

今日の聖書箇所は、信仰生活において、迫害を受け元のユダヤ教に戻ろうとする人々への応援のために、書かれたのですが、現在の私たちにも当てはまるところがあるのではないのでしょうか。

最初に多くの証人たちが出てきますが、この人たちは 11 章に出てくる旧約の信仰者たちです。彼らは、雲のように私たちを取り巻いていると書かれています。雲とは神様の臨在や栄光を象徴していますから、彼らは神と共にあって、その栄光を現す証人だったのです。そのような彼らが私たちを応援してくれていると、この手紙の著者は言いたいのです。だから、忍耐をもって走り続けるように勧めるのです。走り続けるとは主に信頼し、信仰を守り続けることなのです。しかし、そのためには、重荷と罪を捨て去る必要があります。重荷とは、信仰の妨げとなるもののことであり、罪とは、私たちを神から離そうとするもののことです。

2 節にはイエス様のことを、信仰の創始者であり、完成者であると書かれています。イエス様は私たちの信仰のスタートであり、ゴールなのです。換言しますと、十字架に始まり、再臨で完成するのです。また現在の私たちは、パウロが言うように義の冠を授けていただくために信仰の道を走り続けているのです。

テモテへの手紙第二

4:7 私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。

4:8 あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。

ですから、信仰を守り通すには、イエス様から目を離さないことなのです。しかし、イエス様を肉体の目で見ることにはできません。それではどのように見続けるのでしょうか。そこで、ヘブル 11:1 が参考になります。

11:1 信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。とあります。肉体の目で見るとは、信仰の目でイエス様を見続けるということなのです。そして、1 節にあります私たちの前に置かれた競走とは、信仰を守り続けることでしたが、イエス様の前には喜びが置かれています。その喜びゆえに十字架で恥を忍ばれたのです。ではイエス様の喜びとは何でしょうか。それは、復活されて神の右の座に着座されることと、私たちが信仰を守り通して義の冠を頂くことではないかと思います。そして、これらのことによって、神様に栄光を帰すことになるのです。

3 節には、イエス様のことを考えなさいと書かれています。それは、私たちが元気を保ち続け、疲れないようにするためです。考える内容はイエス様が、罪人たちの反抗を耐え忍ばれたという点です。なぜ考える必要があるのでしょうか。それは、イエス様から目を離してしまいそうになることがあるからです。

ここで私はペテロのことを思い起こしました。ペテロは強風を見て怖くなり、沈みかけたのです。(マタイ 14:30) つまり、イエス様から目を離したのです。このことは私たちにも、当てはまるのではないのでしょうか。何を見るのか考えよということではないのでしょうか。そんな時こそ十字架で苦しみ、痛み、悲しまれたイエス様のことを思い起こすべきなのです。そして信仰を守り通せとこの著者は言いたいのです。

イザヤ書を見ますと次のように書かれています。

53:3 彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。

私たちも、恐れや、苦しみ、痛み、悲しみに襲われることがあります。その時こそ、イエス様の十字架を信仰の目で見上げさせていただきましょう。私たちには天の御国が待っているのですから。